

令和8年度 高等学校10年経験者研修 実施要項

- 1 目的 教育公務員特例法第24条の規定に基づき、現職研修の一環として、個々の教諭の能力、適性等に応じて必要な事項に関する研修を実施し、指導力の向上等、教諭としての資質の向上を図る。

*この研修は、教育公務員特例法第24条「中堅教諭等資質向上研修」に相当する研修である。

- 2 対象 教職経験10年めの教諭

- 3 日時等

回	日時		主題	会場等
	1班	2班		
1	4月22日(水) ～ 5月13日(水)		開講式 10年経験者に期待すること 大阪府の教育課題について 教職員の服務規律について 学校の危機管理について 学校・家庭・地域の連携・協働について 研修の受講に当たって 〔講義・演習〕	オンデマンド開催
2	5月13日(水) 14:00～17:00	5月20日(水)	授業づくり 各教科における深い学びの実現【理論】 〔講義・演習〕	大阪府教育センター
3	5月～12月		授業づくり 各教科における深い学びの実現【実践】 〔演習〕	所属校等
4	5月27日(水) 14:00～17:00		授業づくり 組織的な授業力向上の取組みの推進【理論】 〔講義・演習〕	大阪府教育センター
5	5月～1月		授業づくり 組織的な授業力向上の取組みの推進【実践】 〔演習〕	所属校等
6	5月20日(水) ～ 6月3日(水)		組織づくり チームビルディング【理論】 －一人ひとりの能力や強みを生かした組織づくり－ 〔講義・演習〕	オンデマンド開催
7	5月～1月		組織づくり チームビルディング【実践】 〔演習〕	所属校等
8	6月3日(水) ～ 6月17日(水)		組織づくり メンタリング【理論】 －初任期教員のキャリアを援助する存在－ 〔講義・演習〕	オンデマンド開催
9	6月～1月		組織づくり メンタリング【実践】 〔演習〕	所属校等
10	6月17日(水) ～ 8月19日(水)		経験×生成AIが生み出す教育の可能性 〔講義・演習〕	オンデマンド開催
	7月29日(水) ～ 8月19日(水)		ともに学び、ともに育つ －支援教育のさらなる充実のために－ 〔講義・演習〕	

11	9月30日 (水)	10月7日 (水)	人権侵害事象の対応について 〔事例検討〕	大阪府教育センター
	15:00~17:00			
12	9月16日 (水)	10月14日 (水)	人権教育の推進について 〔講義〕	オンデマンド開催
	14:00~17:00			
13	12月2日 (水)	12月9日 (水)	授業づくり 各教科における深い学びの実現【検証】 〔協議・演習〕	大阪府教育センター
	14:00~17:00			
14	1月20日 (水)	2月3日 (水)	授業づくり 組織的な授業力向上の取組みの推進【検証】 〔協議・演習〕	大阪府教育センター
	14:00~17:00			
14	1月27日 (水)	2月3日 (水)	組織づくり【検証】 閉講式 〔講義・協議〕	大阪府教育センター
	14:00~17:00			

※太字の時間帯は、通常時間帯と異なるので注意してください。

※第11回は、集合開催、オンデマンド開催を両方とも受講してください。

4 会場 第1、3、5~11回 所属校等

第2、4、11~14回

大阪府教育センター（大阪市住吉区苅田4丁目13番23号 電話 06-6692-1882）

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m
JR 阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

5 その他

(1) 受付は30分前から。

(2) 来所時には、所属名・名前が入った名札を着用すること。

(3) 大阪府教育センターに、自家用自動車・バイク等の駐車はできません。

(4) (受講決定後~当日) Plant で、事前連絡や課題等がないか確認すること。

6 担当室 企画室

1 目的

教育公務員特例法第24条の規定に基づき、現職研修の一環として、個々の教諭の能力、適性等に応じて必要な事項に関する研修を実施し、指導力の向上等、教諭としての資質の向上を図る。

2 大阪府教員等育成指標の対象項目

OSAKA 教職 スタンダード	共通の指標														
	I			II			III			IV			V		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
第4期															
第3期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第2期	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第1期															
第0期															

3 研修の主題とねらい等

回	主題	ねらい	準備物・事前課題
1	開講式		準備物 ・「10年経験者研修の手引」 ・実施要項・シラバス
	10年経験者に期待すること	講義を通して、10年経験者に期待される役割について学び、自身が担うべき役割について認識を深める。	
	大阪府の教育課題について	講義を通して、大阪府の教育の現状と課題について学び、大阪府がめざす教育の方向性について理解する。	
	教職員の服務規律について	講義を通して、服務規律等について、昨今の法令を基に認識を深め、教育公務員としての意識を高める。	
	学校の危機管理について	・講義、演習を通して、ミドルリーダーに求められるリスクマネジメントとクライシスマネジメントについて考え、学校が直面する危機や災害時の対応、防災教育について理解する。 ・講義を通して、食物アレルギーと色覚特性、心肺蘇生法やAEDの使用の必要性や重要性について学び、危機管理について理解を深める。	
	学校・家庭・地域の連携・協働について	講義、演習を通して、大阪府が推進する「教育コミュニティ」づくりについて学び、学校・家庭・地域が連携・協働し、ともに子どもを育む取組みについて認識を深める。	
	研修の受講に当たって	講義を通して、これまでの教員生活を振り返り、今後の教員としての在り方、心構えについて考え、教員としての使命感を高める。	
2	授業づくり 各教科における深い学びの実現【理論】	講義、演習を通して、各教科における「主体的・対話的で深い学び」について考えるとともに、単元等を見通した「指導と評価の一体化」の重要性やICTの効果的な活用方法等について学び、「深い学び」の実現に向けた指導方法と評価方法について理解する。	準備物 単元計画作成のために必要となる資料（担当する授業のシラバスや教科書等）

3	授業づくり 各教科における深い学びの実現【実践】	演習を通して、各教科における「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の工夫について考察し、単元等を見通した指導と評価について計画・実践の上、その成果と課題を振り返り、「深い学び」について理解を深める。	
4	授業づくり 組織的な授業力向上の取組みの推進【理論】	講義、演習を通して、組織的な授業力向上の取組みを推進するにあたっての基本的な理念を学び、所属校における授業力向上の目標の実現に向けた研究授業や協議または校内研修を企画・実践するにあたってのポイント等について理解する。	準備物 (所属校における下記のもの) ・学校経営計画 ・令和7年度学校教育自己診断結果
5	授業づくり 組織的な授業力向上の取組みの推進【実践】	演習を通して、研究授業や協議または校内研修を企画・実践の上、その成果と課題を振り返り、組織的な授業力向上の取組みの在り方について理解を深める。	
6	組織づくり チームビルディング【理論】 —一人ひとりの能力や強みを生かした組織づくり—	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を通して、チームビルディング（組織関係づくり）の基本を学び、自らが果たす役割について理解する。 ・講義、演習を通して、組織マネジメントや人材育成についての知識を学び、組織づくりについての理解を深める。 	
7	組織づくり チームビルディング【実践】	【理論】回の内容を踏まえ、組織づくりの実践を通して、自身が果たすリーダーまたはフォロワーとしての役割を意識し、自身の果たした役割について考察する。	
8	組織づくり メンタリング【理論】 —初任期教員のキャリアを援助する存在—	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習を通して、メンタリングの考え方や進め方について学び、先輩教員としての自覚を高める。 ・講義、演習を通して、メンターとメンティとの人間関係で繰り広げられる人材育成の手法に触れ、OJTの活性化の担い手として、自らが果たす役割を理解する。 	準備物 「メンタリング・ハンドブック」
9	組織づくり メンタリング【実践】	<ul style="list-style-type: none"> ・【理論】回の内容を踏まえ、実践を通して、初任期教員の支援につながる取組みを行い、メンティのキャリアを援助する方法を身に付ける。 ・所属校の実態に合わせた実践を通して、改善等を加えながら成果や課題を整理し、自身の取組みを推進するための実践力を養う。 	

10	経験×生成AIが生み出す教育の可能性	講義、演習を通して、学校における生成AIの利活用の可能性について考えを深めるとともに、リスクや留意点を理解し、適切かつ効果的な活用について考えを深める。	
	ともに学び、ともに育つ —支援教育のさらなる充実のために—	講義、演習を通して、大阪府における支援教育の現状と課題について認識を深め、共生社会にむけた支援教育の推進について理解する。	
11	人権侵害事象の対応について	人権侵害事象に関わる事例検討を通して、人権侵害事象の分析及び対応について学び、人権が尊重された学校づくりにおける、自身の役割について理解を深める。	
	人権教育の推進について	講義を通して、人権教育に関する法律や条例、調査結果等から、大阪府における人権教育の現状と課題について認識を深め、教育活動全般を通じて人権教育を推進していく重要性について理解する。	
12	授業づくり 各教科における深い学びの実現【検証】	<ul style="list-style-type: none"> ・協議を通して、授業実践の内容を共有・検証し、「深い学び」の実現に向けた工夫について理解する。 ・演習、協議を通して、自身の実践に関する成果と課題を振り返るとともに、今後の具体的な授業改善について考え、各教科でめざす資質・能力の育成につながる授業の実践力を身に付ける。 	準備物 第3回で作成した次の3点を持参すること <ul style="list-style-type: none"> ・実践レポート ・学習指導案 ・実践に関する資料 ※詳細は、第2回で連絡します
13	授業づくり 組織的な授業力向上の取組みの推進【検証】	<ul style="list-style-type: none"> ・協議を通して、所属校において本年度の目標の実現に向けて実施した内容を共有・検証し、組織的な授業力向上の取組みの工夫について理解する。 ・演習、協議を通して、自身の実践に関する成果と課題を振り返るとともに、今後の取組みについて考え、授業力向上につながる企画力・実践力を身に付ける。 	準備物 第5回で作成した次の2点を持参すること <ul style="list-style-type: none"> ・実践レポート ・校内研修資料等 ※詳細は、第4回で連絡します
14	組織づくり【検証】	<ul style="list-style-type: none"> ・所属校での実践を基にした協議を通して、「メンタリング」、「チームビルディング」を意識した各校での取組みを共有し、組織づくりについての考えを深める。 ・自らの取組みの成果と課題及び協議を踏まえて、次 	準備物 第7、9回で作成した実践レポート（1枚）を持参すること。

		年度に向けてミドルリーダーとしての具体的な取り組み内容について考え、今後の実践の見通しを持つ。 ・講義を通して、OJTの活性化について具体的な取り組みを考え、メンタリングについて認識を深める。	
	閉講式		

4 OSAKA 教職スタンダードとの関わり

求められる資質・能力		第2期	研修回
		第3期	
I	1 人権尊重の精神	学校の人権教育推進のために行動できる	10、11
		学校の人権教育及び地域啓発を企画・推進し、教職員を指導できる	10、11
	2 危機管理能力	学校安全のために組織的な行動ができる	1
		学校における危機管理体制を点検し、改善できる	1
	3 学び続ける力	幅広い専門性を高めることができる	1
		最新情報を収集し、実践を発信できる	1
II	4 課題解決能力	学年〔学校〕の課題を把握し、解決に向けて行動できる	1、10、11
		学校の課題を把握し、解決に向けて行動できる	1、10、11
	5 法令遵守の態度	法令への深い理解を持っている	1
		法令遵守の精神を教職員に助言できる	1
	6 事務能力	効率的に処理ができる	1、10
		他の教職員と協力し効率的に処理できる	1、10
III	7 協働して取り組むことができる力	チーム力を高めることができる	1、4～9、13、14
		組織力を高めることができる	1、4～9、13、14
	8 ネットワークを構築する力	課題を解決するためのネットワークを構築できる	1、4～9、13、14
		組織力を高めるためのネットワークを構築できる	1、4～9、13、14
	9 マネジメントする力	学校教育目標に基づき、学級経営等を行うことができる	1、4～9、13、14
		学校教育目標に基づき、学校の計画を作成・実行できる	1、4～9、13、14
IV	10 授業を構想する力	創意工夫をした学習指導案を作成することができる	2、3、12
		他の教員に授業の構想について助言ができる	2、3、12
	11 授業を展開する力	子どもの実態に応じた授業展開ができる	2、3、12
		授業展開について助言ができる	2、3、12
	12 授業を評価する力	授業改善を推進する	2、3、12
		授業評価力を身に付けている	2、3、12
V	13 子どもを理解し、一人ひとりを指導する力	子どもどうしのコミュニケーションを促進できる	10、11
		子ども対応のロールモデルとなる	10、11
	14 子どもの集団づくりを指導できる力	組織的な対応の中心となることができる	10、11
		組織的な指導体制を機能させることができる	10、11
	15 子どもを集団づくりの中でエンパワーできる指導力	学年全体の実態把握ができる	10、11
		学校全体の実態把握ができる	10、11